

## 令和6年度 第1回高松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和6年8月1日(木) 午前10時00分～午前11時04分

2 場 所 高松市役所13階 大会議室

3 出席者 高松市長 大西 秀人  
高松市教育委員会教育長 小柳 和代  
高松市教育委員会委員(教育長職務代理者) 吉澤 潔  
高松市教育委員会委員 葛西 優子  
高松市教育委員会委員 小方 朋子  
高松市教育委員会委員 富家 佐也加  
高松市教育委員会委員 和泉 憲

4 事務局 出席者

(教育委員会)

教育局長 一原 玄子  
教育局次長総務課長事務取扱 黒川 桂吾  
教育局次長生涯学習課長事務取扱 佐々木 啓明  
教育局総務課長補佐 春日 布三  
学校教育課長補佐 小柳 良二  
総合教育センター所長 真鍋 康秀  
総合教育センターICT教育推進室長 川野 祥靖  
教育局総務課総務係長 唐渡 みどり  
教育局総務課総務係副主幹 香川 有美子  
教育局総務課総務係主事 道久 拓元

(政策局)

政策局長 蓮井 博美  
政策局次長政策課長事務取扱 長谷山 隆義  
政策局政策課長補佐 吉田 幸弘

(総務局)

総務局長 外村 稔哉  
総務局次長 村上 太郎  
デジタル戦略課長 横山 光弘  
デジタル戦略課長補佐 岡 宗典  
デジタル戦略課副主幹 六車 明人

(創造都市推進局)

創造都市推進局長

創造都市推進局次長文化芸術振興課長事務取扱

文化芸術振興課長補佐

文化財課長

スポーツ振興課長

美術館美術館長

次田 吉治

辻下 美智子

本多 広実

川畑 聡

溝渕 雅春

佐藤 友香

5 傍聴人 4人

6 協議事項

(1) 放課後 FACT-ory の取組について

(2) 文化・スポーツ施策の推進状況について

7 議事の経過

【開会】

【市長挨拶】

○ 市 長

それでは、私の方で進行させていただきます。

本日は、今年度第1回目の総合教育会議となるが、「放課後 FACT-ory の取組について」、「文化・スポーツ施策の推進状況について」の2つの議題について協議を行うこととしている。

まず、協議事項1の「放課後 FACT-ory の取組について」、総務局デジタル戦略課から説明をお願いします。

【議題(1)】

○ 事 務 局 (デジタル戦略課長、デジタル戦略課副主幹)

(「放課後 FACT-ory の取組について」説明。)

○ 市 長

放課後 FACT-ory という名前だが、ファクトというのは本市のデジタル戦略のテーマであるフリーアドレスとファクトリー向上であるが、趣旨など説明いただきたい。

○ 事務局 (デジタル戦略課副主幹)

放課後 FACT-ory は、令和2年に本市がスーパーシティの指定を受けるために、2030年を時間軸に本市がどうあるべきかを市内のチームで検討した中で、子どもたちを中

心に、街全体がフリーアドレスにどこにでも行ける、或いは子どもたちも大人の近くによっていけるまちを目指し、その時に実施できるサービスとして、放課後に、市内全体を工場と見立てて、いろんなものを提出できる、放課後 FACT-ory というサービスを実現していこうと名付けられた経緯がある。

○ 市長

ただいまの説明について、御意見・御質問等があれば、御発言をお願いする。

○ 委員

プラットフォームの中に企業が多く出ているが、企業だけでは業種などが絞られてくる。今、高松に個人のフリーランスの方が多くいる。高松は住みやすく、高松で仕事をしようという方が増えるのが1番だと思うので、ぜひ個人にも注目して、もっと個人を掘り下げて充実した内容にしていきたい。

○ 事務局（デジタル戦略課長）

プラットフォームで紹介する内容は、高松市にどのような企業があるのか知っていたためである。企業だけでなく、個人の方もいろんな思いの中で仕事をしていることを、児童生徒にわかっていただくことは、シビックプライドの醸成につながる大事な観点と思うので参考にさせていただきたい。

○ 委員

Uターンを希望する人は就職時に地元を研究した人ではなく、地元にしたときに、いい経験をした人という、この分析はとても面白い。こういう分析を基に工夫ができるのは、とても素敵だと思う。

小学生や中高生が面白いと思うときと、高校3年生が自分の近い将来の職業を考えたときとでは、企業に対しての目の付け所は違う。どれにも合うコンテンツを作るのは難しいが、基本的なものを作成して、小学生や中高生とか就活生に合わせて作り変えるのは、最初から作るよりも簡単だと思うので、ぜひ多くの企業に自社のPR動画や見学ツアーみたいなコンテンツを作っていただきたい。また、高松に帰省して帰ってきた際に、高松駅や空港などで、地元企業などのPRをすると面白いと思う。

○ 事務局（デジタル戦略課副主幹）

地元の企業や地元の人たちは、それぞれ自主的に、いろんなイベントやイベント企画、或いは見学予約の受付をしているが、それらがその興味のある子どもたちに、きちんとつながっていないのではないかと考えている。子どもたちにつなげるため、子どもたちに見てもらえるように、教育委員会と市長部局も連携して取り組んでまいりたい。

○ 委員

かねがね申しあげているが、子どもたちは、どんどん県外や海外へ出て行ってほしい。そして、香川に恩恵をもたらすようなりっぱな人になって帰って来てほしい。或いは外から応援していただきたいと思う。

外の企業や省庁を高松に誘致するとか、大学や立派な教育機関を高松につくるなど、高松に子どもたちを留めるのでなく、日本中の人を高松に集めることが、結果的に高松の人口が増えて、にぎわいが創生されると考える。高松の教育文化が向上することが目的なので、守りの姿勢ではなく、外から集められるような、魅力ある高松にするという目線でのコンテンツづくりが大事ではないか。

○ 市長

確かに、先ほどの説明だと守りのイメージがある。より積極的に高松のよさをPRする魅力づくりにより、外部から人や企業、まさに関係人口等と呼んでくる、そういう移住定住促進の手段の観点をもっと入れて、このファクトリーのコンテンツを作っていただければありがたい。

○ 委員

子どもたちが県外に就職したときや大学に進学したときに、ふと「高松はよかったな。」と地元の良さを感じる人が多いと思う。そのためのシビックプライドの醸成は、やはり小さいときから積み重ねていかないといけないと考える。

子どもたちは、中学校で職場体験、高校生、大学生になったらインターンシップを経験する。今後は、AIによる職業マッチングや企業コラボも行われるようになると思うので、子どもたちが高松のいろんな企業を知っていくということが大切だと思う。継続してコンテンツを増やして、学びを増やしていただきたい。教科書を見ると、最近、教材の内容に合わせた技や巧など企業の取組が紹介されているので、習ったときに高松の企業を見ることができると面白いと思う。

○ 事務局（デジタル戦略課副主幹）

小さい頃から、何となく高松がいいなと思い、自分の学びたいことを学ぶために県外の大学に進学したときに、「やっぱり高松はよかった。」と思い起こせることは、とても大事だと思う。地元でいたときに、いい経験をした人がこれにつながると考える。体験と接触を増やしてあげることが、このシステム、或いはコンテンツの充実の主眼だと考えている。

○ 委員

子どもと地域とのつながりが希薄化しているという説明があったが、小学生のうちは、行事を通じて地域や学校とのつながりが比較的あるが、中学生になると途端にそれが薄くなる。高校生になると、なおさら地域とのつながりは薄くなると思うので、今回コンテ

コンテンツを作ることで地域や企業とのつながりができるのは非常にいい取組だと思う。

小・中学生が、自分で放課後に行けるような、地元に着した企業や個人の方、或いはコミュニティーセンターなどともつながりを持てるようなコンテンツにしていきたい。

○ 事務局（デジタル戦略課長）

プラットフォームを作るに当たり、子どもと地域の希薄化が進んでいる中で、それを解消、課題解決することにより、シビックプライドの醸成につながるのではないかとという観点もある。地元の企業や地元の方に焦点を当ててコンテンツの充実を図りたい。

○ 市長

コンテンツも増やし、データベースのような形になるようにお願いしたい。

○ 教育長

教育委員会では、4月から第3期高松市教育振興基本計画をスタートさせ、施策の基本方針の1つに、ふるさとの未来を支える教育の推進を掲げている。

学校現場では、小学校では低学年のときに身近な地域を学び、中学年では、高松の今と昔ということで、高松の歴史を産業も含めて学ぶ。中学校では、2年生で特にキャリア教育、その中でも職場体験学習ということで、職場に出向いて体験をしている。

子どもどの発達段階に、このコンテンツをどんなふうに活用するかというところが非常に大事になると思うので、そのことについては教育委員会も連携させていただければと考えている。

コンテンツの作成に当たり企業を多く取りあげの中で、やはり人の思いをしっかり取り上げてほしい。以前、ある中学校で新しい校舎を建てる工事を2年間行ったのだが、どんどん校舎が建ち上がっていく様子に、興味を持った男の子がいた。建設会社の現場監督の方が招かれ、キャリア教育の一環として講話を行った。それを聞いた男の子は、その人の生き方や物の考え方、仕事のやりがいや喜びに触れて、憧れの気持ちを抱き、大学で建築学科に進み、卒業後、現在その会社で活躍をしているという。やはり子どもの成長の中で、どの時点でどういった方と出会うかとか、どういったものに触れるかということで、本当に人生は大きく変わっていくと思う。

この放課後FACT-oryが、高松の子どもたちに、何らかの意味で影響を与えて、子どもたちの将来につながってほしいと思うし、教育振興基本計画の基本方針が、「高松を愛し 夢と志を持って 一人ひとりが輝く教育」としているので、教育委員会としても連携しながら、このコンテンツの充実を一緒に考えていきたい。

○ 市長

教育委員会でも、学校にある一人一台端末等を使って、先生方に工夫をしていただいて、

授業等でも活用していただければと思うし、子どもたち自身がデータベース的な活用をして、自分でいろいろ探したりするのもいいと考える。

社会の担い手が減少する中で、将来を担う子どもたちが少なくとも地域への関心、高松への関心を高めてもらうためのシステムがこの放課後 FACT-ory であると思うので、それをいろんな形で有効に使っていただきたい。

子どもたちが安全安心に利用できて、子どもが興味を持つようなコンテンツの充実を図り、シビックプライドの醸成、或いは移住定住人口の増加、また或いは、関係人口の増加といったものにつなげていただきたい。

教育委員会の方でも御活用をお願いしたい。

他になれば、協議事項2に移らせていただく。

#### 【議題（2）】

○ 事務局（創造都市推進局次長）

（「文化・スポーツ施策の推進状況について」説明。）

○ 市長

ただいまの説明を受け、御質問・御意見はあるか。

○ 教育長

高松市は、教育現場で子どもたちが優れた芸術に親しんだり、触れたりする機会が非常に充実している。例えば、保育所・幼稚園・こども園への芸術士派遣事業、説明のあった巡回芸術教室や劇団四季など、小学校のときから芸術に親しむ機会が用意されている。これからも引き続き継続していただきたい。

○ 委員

子どもたちが幼いころから本物に触れる機会を多く準備いただいており、また、劇団四季ミュージカルも香川県では見る機会が少ないので、とてもありがたい。

学校巡回芸術教室は、具体的にどういうことをしているか、教えていただきたい。

○ 事務局（創造都市推進局次長）

文化団体の御協力を得て、芸術の鑑賞体験をする機会ということで、音楽やダンスなど、毎年、幅広い内容で学校を巡回している。令和5年度は、瀬戸フィルハーモニー交響楽団の演奏会、演劇ワークショップやダンスを一緒に行う講座を開催した。

○ 委員

今回、中央図書館や歴史資料館、菊池寛記念館の改修があるので、子どもたちが学習するサンクリスタル学習の更なる充実を期待している。

幼稚園や保育園の子どもが、芸術士やスポーツ士の方たちが来られ、楽しく過ごしている様子を見る機会があった。芸術やスポーツなどに触れる機会が、小さい頃からあるのはとてもよい。

○ 委 員

非常に多くの事業を積極的に頑張ってくださいと感謝する。

屋島、高松港、瀬戸内海、山脈など、高松の自然を使った事業は少ないと感じる。トリアスロンのように自然を使うスポーツや、自然を利用した夕暮れのコンサートなど、人を呼べる事業をどんどん繰り広げていただきたい。また、完成する県の施設であるサンポートアリーナを使った事業も検討いただきたい。

○ 市 長

県立アリーナを活用した文化事業やスポーツ事業など、MICEの誘致も含めて、市としても有効活用を図っていききたい。

県・市で協力している芸術として、8月3日から「真夏の夜の夢」という音楽ステージイベントと、大道芸的なパフォーマンスを組み合わせ、夏の夕暮れの瀬戸内海を背景とした文化イベントを行う。恵まれた景観と土地を活用した文化イベント等も積極的にやっていきたい。

○ 委 員

本物に触れるのは、画面の向こう側や紙で見るのとは全然違う感動があるので、いろいろな試みが子どもたちに届いて本当にありがたい。

令和5年度は、コロナで減っていた利用者数は回復したのか。

○ 事務局（創造都市推進局次長）

街中パフォーマンス事業、高松ミュージックブルーフェスを始め、5つの事業をしており、令和2年、3年、4年と確実に回復をしているが、令和5年度は、まだ、令和元年のコロナ前の水準に達してはいない。今年度も、街中パフォーマンス事業も進め、今後、より人数を増やしていくように取り組みたい。

○ 委 員

多方面で子どもたちが、文化スポーツに触れさせていただいていること感謝する。瀬戸内海の多島美など、高松の誇れるものだと思うので、来年度にある瀬戸芸などを通じて、島巡りなど、子どもたちに機会を与えていただくよう検討いただきたい。

○ 市 長

自然を活用して、もっと文化芸術などで特徴的なこの瀬戸内海の都市、高松でしかでき

ないようなイベントやスポーツ大会、或いは企画会議等も誘致や振興をしていきたい。  
他に何か発言があればお願いします。

今後における本市の文化、スポーツ施策については、本日いただいた御意見を生かしなが  
ら一層の充実を図っていただきたい。それでは、進行を事務局にお返りする。

○ 事務局（教育局長）

教育委員の皆様方には、総合教育会議に御協力いただいたこと、心よりお礼申しあげる。

今年度、第2回高松市総合教育会議の開催については、来年2月ごろを予定している。

日程、議題等については別途調整をさせていただく。

今後とも、御指導、御協力賜るようお願い申しあげ、閉会とする。